第92回歴史探訪の会「東高野街道を歩き周辺の史跡を巡る」

実施日：令和６年３月１３日（水曜日）
場　所：大阪府 四條畷市・大東市
世話人：澤田謙治

前日からの雨は朝方に止み、風が少し冷たく感じられる一日でしたが、30名の方に参加頂きました。京、大坂から高野山に向かう道筋でいくつかある高野街道のうち最も東にある「東高野街道」が生駒山系の飯盛山の麓を通る、四條畷市、大東市で街道沿いにある史跡を巡りました。

コース：　JR 四条畷駅→小楠公墓所→四條畷神社→十念寺→野崎まいり公園（昼食）→
慈眼寺（野崎観音）→専應寺→大東市立歴史民俗資料館→観音浜石碑→JR 野崎駅

【東高野街道】

京、大坂から高野山へ向かう道筋で、いくつかある高野街道のうちでいちばん東側に位置する道筋です。八幡（京都府八幡市）で京街道と別れ、旧河内国の東部を通り、長野（大阪府河内長野市）で西高野街道と合流し、以南は高野街道として紀見峠、橋本、高野山へ至る街道です。

現在の都市名で言うと、京都府八幡市～大阪府枚方市～交野市～寝屋川市～四條畷市～大東市～東大阪市～八尾市～柏原市～藤井寺市～羽曳野市～富田林市～河内長野市にまたがる道筋で、旧国道 170 号、或いはそれに沿った道筋です。街道周辺には野崎観音、石切劔箭神社、道明寺天満宮、誉田八幡宮等々があります。

（2012 年（平成 24 年）3 月に第 27 回歴史探訪の会で西高野街道を堺東から萩原天神まで歩きました）

京都、大阪から高野山に向かうルートは以下の 4 つあったとされます。いずれも最終的には現在の河内長野市付近で合流し、高野山につづきます。

① 東高野街道
　現在の八幡市から、現在の大阪府東部を通って河内長野市まで
② 中高野街道
　現在の大阪市平野区から、松原市、大阪狭山市を経由して河内長野市へ
③ 下高野街道
　現在の大阪市天王寺区から、東住吉区（庚申街道と合流）、松原市を経て大阪狭山市で西高野街道と合流
④ 西高野街道
　現在の堺市堺区から、大阪狭山市へ（一部竹内街道と重なる）、大阪狭山市で下高野街道と合流、河内長野市で中高野街道、東高野街道と合流

【小楠公（楠正行）墓所】

楠正行は楠正成の嫡男で、南北朝時代に南朝の後村上天皇に仕えました。父が大楠公として神戸の湊川神社に祀られているのに伴い、小楠公として崇められる様になりました。

1348 年(正平 3 年))1 月、この地飯盛山の麓で四條畷の戦いが行われ、足利尊氏の家臣、高師直、師泰兄弟が率いる北朝軍に南朝軍は敗北し、楠正行、正時兄弟が自害したのを始め、多くの楠一族が戦死しました。その後、正行が自害した河内国讃良郡南野村字雁屋に「楠塚」と呼ばれる正行の墓が作られ、ひっそりと菩提が弔われていました。 明治時代になると明治政府によって南朝が正統とされ、正行の父である楠木正成が大楠公として神格化されると、その父の遺志を継いで南朝のために戦い、命を落とした嫡男の正行も小楠公と呼ばれ、崇められるようになり、それに伴い、1878 年（明治 11 年）に楠塚は「小楠公御墓所」と改められて整備されました。 墓所入り口右手には「忠」、そして左手には「考」と刻まれた石柱があります。この地にある楠は樹齢約 600 年で大阪府の天然記念物にしてされています。

小楠公墓地でガイドさんの説明を聞く

樹齢 600 年、大阪府天然記念物のクスノキ

【四條畷神社】

御祭神は主祭神の楠正行（小楠公）と、楠木一族の将士 24 柱を配祀しています。創建は 1890 年(明治 23 年)。明治政府により南朝が正統とされ、「小楠公墓所」が整備された頃、飯盛山の山麓にある住吉平田神社の神職らが中心となり、地元有志らが楠氏らを祀る神社の創建を政府に願い出た結果、1890 年（明治 23 年）に住吉平田神社の南隣の地に別格官幣社として創建されました。

（注）別格官幣社とは、神社の社格の一つで、古来国の為に功があった人を祭神とする神社で、そのはじまりは楠正成を祀った神戸の湊川神社です。

四條畷神社への参道

楠正成、正行親子の桜井の駅の別れを表す像

楠正成、正行親子には、正成が京より足利尊氏との「湊川の戦い」に向かう途中、桜井の駅（現在の大阪府三島郡島本町）で自身の死後も帝（南朝の）に忠義を尽くすように諭して河内に帰らせたと云う逸話があります。

四條畷神社にて

【十念寺】

四條畷の戦いでなくなった楠正行（小楠公）他一族郎党の菩提を弔う寺としてはじまる。元々は融通念仏宗であったが、現在は浄土宗の寺院となっています。四條畷の戦いの後、永禄年間（1558 年～1570 年）になるも霊魂やすまらず、里人が融通念仏宗の功徳により霊を慰めたと伝わります。
山門の傍には「小楠公並一族菩提地」の石碑があります。

この辺りは飯盛山と深野池に挟まれた狭い場所で東高野街道が走っており、四條畷の戦いの戦場となりました。近くには「ハラキリ」、「古戦田」という地名が残っています。

【大和棟】

大和地方を主として、河内・山城南部地方に多く見られる切妻造りの民家の一形式です。
中央の大屋根を急勾配の茅葺きとし、両妻面は大壁、左右又は片方に台所などの緩い勾配の屋根を一段低く設けた独特の屋根型をしています。

昔ながらの大和棟が残る家、現在も住人がここで暮らしておられます。

【慈眼寺（野崎観音）】

曹洞宗のお寺で、山号は福聚山。 慈眼寺（じげんじ）と云う名前よりも「野崎観音」と云う名で親しまれているお寺です。創建は 1300 年ほど前で、749～757 年（天平勝宝年間）天竺（現在のインド）から来日した婆羅門僧正が行基に「野崎は釈迦如来が初めて仏法を説いた鹿野苑（ハラナ）に似ている」と語り、それを受けた行基が、白樺で十一面観音を刻んで当地に安置したのが始まりと伝えられています。本尊は長谷寺の本尊と同木から彫られたと伝わっています。

元禄時代から伝わる行事「野崎まいり」は、正しくは無縁経法要というもので、生きとし生けるものすべてに感謝の経を捧げる伝統行事です。江戸時代から 300 年以上も長く続き、落語の「のざきまいり」、東海林太郎の「野崎小唄」、「お染久松の恋物語」などで広く知られています。かつては大阪の八軒家浜（現在の天満橋辺り）から舟で淀川、寝屋川、支流の川を利用して屋形船が通っており、船で行く人と陸で行く人とで罵り合って競り勝てば一年の幸を得られたという俗信があり、この時期になると周囲はとても賑わっていたと伝わっています。今でも毎年 5 月 1～8 日の「野崎まいり」の時期には JR 野崎駅から寺への参道にはたくさんの露店が並ぶそうです。

境内には「江口の君堂」、「十六羅漢堂」、「西国三十三所観音堂」、「お染・久松の墓」などがあります。

・江口の君堂

平安時代に遊女・江口の君が、難病治癒の報恩を感謝するため戦火などにより荒廃した寺の再興に尽力し中興の祖と位置付けられています。「江口の君」は「女性をお守り下さる仏様」と言われており縁結び・安産・子授け・婦人病などにご利益があるとされています。

・十六羅漢堂

羅漢とは釈迦の 16 人の高弟のこと。「野崎観音十六羅漢、うちの親父は働かん」と子供の遊び歌にもなり、観音様と共に信仰をあつめてしました。

・西国三十三所観音堂

西国札所三十三所の観音様を祀ってあり、このお堂に参れば三十三霊場を一度に拝む事が出来るとされています。

野崎観音境内

西国三十三所観音堂

慈眼寺（野崎観音）本堂を背景に

【専應寺】

浄土真宗本願寺派の阿弥陀如来を本尊とする寺院で、山号は戸森山。聖徳太子像を安置する太子堂があります。親鸞の愛弟子 24 人のうちの一人、「唯信」が開祖と伝わっていて、その事を示す道標があります。又、 京極丹後守高知寄進の手水鉢および石垣があり、その事を示すと家紋が見られます。
（徳川氏による大阪城築城のときに、専応寺を宿舎にして、この上の山から石垣に使う石を切り出したとのことです）

太子堂には親鸞が聖徳太子を敬ったことから。南北朝時代に作られたという聖徳太子の木像があります。野崎観音へのお参りも、ここで装束をあらためてから参拝するのが一般的な道筋だったようです。

【大東市立歴史民俗資料館】

小学校の跡地を活用して“歴史とスポーツふれあいセンター”として設けられました。
歴史民俗資料館、体育館、グラウンド、ふれあいルームからなる総合施設で、図書館も併設されています。 歴史物の見学だけでなく、文化財や歴史散策コースを検索し、それを映像等で見ることもできます。又、近くの古墳から出てきた甲冑のレプリカの試着や、土器に模様を付けたりすることなどが体験出来ます。

歴史民俗資料館の展示

【観音浜石碑】

野崎観音へのお参りに船を利用する人達は、淀川、寝屋川とその支流を屋形船で、その後住道辺りで小さな田舟に乗り換えて野崎までやってきていたようです、その船旅の終点が観音浜で、参拝者はここで船を下りて野崎観音にお参りをしたそうです。JR 野崎駅の近くの船着き場があったとされる場所にそれを示す石碑があります。

写真は津垣さんが撮影されたものを使用させて頂きました。